# 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成26年4月22日に「平成26年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

### 1 調査の概要

### (1)目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。 (平成26年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領:文部科学省から)

### (2) 実施状況

- ○実施年月日 平成26年4月22日 (火)
- ○実施内容 ①小学校の教科に関する調査(国語・算数)

主として知識に関する問題 国語A、算数A

主として活用に関する問題
国語B、算数B

中学校の教科に関する調査(国語・数学)

主として知識に関する問題 国語A、数学A

主として活用に関する問題 国語B、数学B

②児童生徒質問紙調査(生活習慣や学習環境等)

○実施学年 小学校6年生 16校 1,301人

中学校3年生 9校 1,050人

#### (3) 調査結果の見方

本調査により測定できる学力は、あくまでも特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

- ※ 使用している用語についての説明は次のとおりです。
  - ○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均
  - ○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示
  - ○中央値 ……… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと

平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。

○標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値

標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味する

### 2 結果の概要

(1) 教科に関する調査(平均正答率:単位%)

### ○全体の傾向

		国語A	国語B	算数·数学A	算数・数学B
<b>举 &amp; 士</b>	小学校	73. 2	55.8	79. 1	59.8
鎌倉市	中学校	83.4	58. 0	74. 4	68.8
神奈川県	小学校	71. 3	54. 6	76. 9	58. 6
(公立)	中学校	79. 2	51. 5	67. 0	60.8
全 国	小学校	72. 9	55. 5	78. 1	58. 2
(公立)	中学校	79. 4	51.0	67. 4	59.8

小・中学校ともに、良好な結果であった。特に、中学校の数学A問題・B問題は、全国公立平均正答率及び神奈川県公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。これは、今までと同様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。

### ○小学校

### ア【国語】

国語A「主として知識に関する問題」、国語B「主として活用に関する問題」 ともに、全般的に結果は良好である。

「書くこと」の領域で、仮定の表現を用いて適切な文に書き直すことについては良好な結果を示している。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、故事成語の意味や使い方を理解することや漢字の書きが不十分なものがある。

詩の内容や表現の工夫を捉えることについて、正答率が高いものもあるが、 詩の解釈における着眼点の違いを捉えたり、複数の詩を比べて読み、自分の考 えを書いたりすることは、無解答率も高く、課題がある。

#### イ【算数】

算数A「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを見る問題」、 算数B「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る 問題」ともに、全国・県よりも高い正答率であった。

「図形」において立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係の問題では全国・県よりも高い正答率であったが、「数量関係」において、減法と乗法の混合した計算や資料からグラフを選択する問題等で全国・県よりも平均正答率を下回っている設問があり、課題がみられる。

また、筋道立てて小数倍の求め方を記述することや量の大小について理由を 書くことに課題がみられる。

### ○中学校

### ア【国語】

全般的に結果は良好であり、全国・県と比較して大きく上回っている。また、 無解答率についても、全国・県よりも低い傾向にある。

必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す問題の正答の割合は全国・県より高い。一方、本やインターネットの複数の資料を比較して読み、要旨を捉える問題の正答の割合は全国・県より低い。文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出しているが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点に課題がみられる。

# イ【数学】

数学A「主として知識に関する問題」、数学B「主として活用に関する問題」 ともに平均正答率が全国・県と比較して大きく上回っている。

関数では、反比例におけるxとyの値の変化の特徴を理解することや、一次 関数y = a x + bにおいて、aとbの値とグラフの特徴を関連付けて理解する ことについて全国・県より高く、また、文字式の計算や一次方程式を解く、連 立方程式を解く問題では、正答率が高い傾向にある。

数学的な見方や考え方の評価の観点では、記述する問題で説明する問題に課題がみられる。また、図形の性質を証明することについて、着目すべき図形を 指摘することは、構想を立てて証明することに課題がみられた。

### (2) 児童生徒質問紙調査結果の概要

### ○小学校

学習時間について、平日、休日を問わず、1日当たり長時間勉強している割合は、 県と同様で全国より高い傾向にある。塾で勉強をしている児童が多いが、家庭で授業 の予習・復習を行っている児童の割合は全国・県に比べて低い。これらは、例年と同 じ傾向である。

基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることや睡眠に対する習慣、学校の 出来事を家の人に話すことなど、おおむね良好傾向であり、習慣づいている様子が伺 える。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」という回答の割合が県より高く、平成25年度からも割合が上がっている。これからも継続して指導をし、意識の醸成を図っていく必要がある。

# ○中学校

学習時間について、平日、休日を問わず、1日当たり長時間勉強している割合は、県 と同様で全国より高い傾向にある。

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが できる」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」割合が高い。

基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることやテレビゲーム、携帯電話、 スマートフォンの使用状況、使用の決め事など習慣づいている様子が伺える。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」 という質問に対して「当てはまる」と回答した割合は県と同様の結果であったが、全 国より低い。これからも継続して指導をし、意識の醸成を図っていく必要がある。

# 3 結果の分析

(1) 教科領域別

◇…良好と認められる点 ◆…課題がある点

○小学校

# ア【国語】

# 話すこと・聞くこと

- ◇話合いの観点に基づいて情報を関係付けること。(A7)
- ◇目的に応じて、話合いの観点を整理すること。 (B1-)
- ◆立場を明確にして、質問や意見を述べること。 (B1三)

# 書くこと

- ◇仮定の表現として、適切なものを捉えること。(A 6 二)
- ◆分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて 書くこと。

 $(B2 \stackrel{\frown}{=})$ 

◆二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くこと。(B3三)

# 読むこと

- ◇新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えること。(A4)
- $\diamondsuit$ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えること。(B3-(1))
- ◆詩の解釈における着眼点の違いを捉えること。(B3二)

### 言語事項

- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと。(A1-(1)、(2))
- ◆故事成語の意味と使い方を理解すること。(A2)
- ◆漢字を書くこと。(A1二(2))

### ◎指導改善に向けて

これまでの調査結果にも出ていたが、漢字の書き等、下の学年で習得しておくべき 基礎的・基本的な知識や技能の定着に不十分なものがあった。習得した漢字を、日常 的に文や文章の中や文脈に合わせて適切に使えるようにするなどの指導に取り組む必 要がある。

また、書くことにも課題がみられる。分かったことや疑問に思ったことを「二文を一文にして書くこと」及び「『例えば』という言葉を使って書くこと」に応じてまとまった文章にして書くことが大切である。

さらに、複数の詩を比べて読み、自分の考えを書くためには、表現の工夫や詩の捉え方を観点にしてそれぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈をすることができるように指導することが大切である。

### ○指導のポイント

- ・互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べる指導の充実。
- ・分かったことや疑問に思ったことを、条件に応じてまとまった文章にして書く 指導の充実。
- ・複数の詩を比べて読み、自分の考えを書く指導の充実。
- ・詩の解釈における着眼点の違いを捉える指導の充実。
- ・故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いる指導の充実。
- ・漢字を文脈に合わせて正しく読んだり書いたりする指導、実生活において、習得した漢字を適切に使う指導の充実。

#### ○具体例

- ・相手の意見を引用するなどして、自分の質問や意見を述べる学習。
- ・全体の構成を捉えて、文と文をつなぐ方法を考え、二文を一文にして書き直す 学習や「例えば」を使って、文と文の関係を整える学習。
- ・詩を読むときの観点(「表現の仕方」「作者や語り手」)を基に、同じ作者の詩を 比べて読み、自分の解釈や考えをまとめるとともに、その考えを広げたり深め たりする学習。
- ・故事成語の意味や使い方を調べたり、問題を自作したりする学習。
- ・習得した漢字の正しい書き方を日常的に確認するような習慣を付けたり、文や 文章の中で正しく使用しているどうかを自分で評価したりする学習。

# イ【算数】

# 数と計算

- ◇異分母の分数の加法の計算をするなどさまざまな加減乗除の計画をすること。 (A1(6))
- ◇示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算

をすること。(B1(1))

- ◆割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になる ことを理解すること。(A2(2))
- ◆示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択すること。(B5(2))

# 量と測定

- ◇体積の単位と測定について理解していること。(A5(2))
- ◇示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めること。(B2(1))
- ◆二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けること。(A4(1))
- ◆示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述すること。(B3(3))

# 図形

- ◇円周の長さを、直径の長さを用いて求めること。(A5(1))
- ◇立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解すること。 (A7)
- $\diamondsuit$ 示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めること。 (B 5(1))
- ◆作図に用いられている図形の約束や性質を理解すること。(A6)

# 数量関係

- ◇二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すこと(A9)
- ◇最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を言葉 と数を用いて記述すること。(B2(2))
- ◆四則の混合した式の意味について理解すること。(A8)
- ◆全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択すること。(B2(3))

### ◎指導改善に向けて

図を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図を解釈したりすることに課題がある。また、示された条件や情報を基にして、方法や理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。基礎的・基本的な知識・技能の習得に力を入れるとともに、それらを活用して、自分の考えを説明したり記述したりする学習に取り組む必要がある。また、課題解決への能動的な姿勢を育てたり、考えを広げたり深めたりするよう、言語活動を取り入れた指導が必要である。

- ○指導のポイント
  - ・小数倍の意味を図と関連付けて理解する指導の充実
  - ・情報を整理して必要な事実を捉え、問題を解決した根拠などを言葉や数、式、

図、表、グラフなどと関連づけて表現する指導の充実

- ・図形の約束や性質と、操作とを関連付けて理解する指導の充実
- ・目的に応じて表やグラフを選択し、活用する活動の充実
- ・事象を観察して数量の変化や対応の様子を捉え、そこから規則性を見いだす指 導の充実

# ○具体例

- ・計算を観察し、見つけたきまりについて、目的をもって式を変形し説明する学 習。
- ・平行四辺形の作図では、手順や方法だけではなく、それらと関連する平行四辺 形の約束や性質と結び付け、理解を深めるような学習。
- ・示された資料から様々な特徴を読み取り、目的に応じてグラフを選択し、資料 を活用できるようにする学習。
- ・基準量、比較量、割合を図に表す活動や、その図を基に演算を決定する活動を 通して、それらの関係の理解を深める学習。

### ○中学校

### ア【国語】

# 話すこと・聞くこと

- ◇目的に応じて、資料を効果的に活用して話すこと。(A1-)
- ◇必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すこと。(A1二)
- ◆目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること。(A6-)

# 書くこと

- ◇心情が相手に効果的に伝わるよう、描写を工夫して書き加えること。(A2-)
- ◇集めた材料を分類するなどして整理すること。(A4-)
- ◆資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く こと。(B2三)
- ◆根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと。(B3三)

# 読むこと

- ◇登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること。(A3-)
- ◇落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像すること。(B3二)
- ◆文章の構成や表現の仕方などについて、自分の考えをもつこと(B1三)
- ◆複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること。(B2-)

### 言語事項

- ◇文脈に即して漢字を正しく読むこと、また歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに 直して読むこと。(A8二2、3、五1)
- ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。

(A8三イ、ウ、エ、オ、カ、キ)

- ◆文脈に即して漢字を正しく書くこと。(A8-1、2)
- ◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。(A8三ア)
- ◆辞書を活用して、語句の意味を適切に書くこと。(A8四)

# ◎指導改善に向けて

文章の要旨を捉え、自分の考えをもち伝えたい事柄や根拠を明確にして書くこと に課題があった。

今後も目的に沿って資料内容を整理したり、書き手が文章を書こうとした目的や 意図を分析したりする学習に取り組む必要がある。また、本や文章のどの部分に着 目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどをていねいに書く よう指導する必要がある。

言語事項では、言葉への関心を深め、言語感覚を豊かにするとともに、漢字や慣用句など、知識を身に付ける学習に引き続き取り組む必要がある。

### ○指導のポイント

- 伝えたい事柄を明確にして、分かりやすく書く指導の工夫。
- ・根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫。
- ・資料を読んで要旨を捉えたり、必要な情報を正確に読み取ったりする指導の工夫。
- ・文章の構成や表現の仕方を捉えて自分の考えをもつ指導の工夫。
- ・言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫。

### ○具体例

- ・標語に用いられている表現の工夫とその効果について分析し、それを生かし て読書についての標語を創作する学習。
- ・説明的な文章を読んで適切な情報を得、質問に対して回答する文章を、結論 と根拠が明確に伝わるように書く学習。
- ・落語の一場面を、話の展開や場面の描写、せりふなどを根拠にして登場人物 の心情を想像し、演じ方の工夫を考える学習。
- ・様々な方法で言葉を収集して言葉カレンダーを作成し、言葉を選択する過程 で、語感を磨き語彙を豊かにする学習。

### イ【数学】

# 数と式

- ◇連立二元一次方程式をつくって問題を解決するために、着目する必要がある数量を見いだし、その数量に着目して式を作ること。(A3(3))
- ◇事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることでその説明を完成

すること。(B2(2))

- ◆数量の大小関係を不等式に表わすこと。(A2(1))
- ◆予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明すること。(B2(3))

# 図 形

- ◇三角形の合同条件を理解していること。証明のための構想や方針の必要性と意味 を理解すること。(A7、8)
- ◇日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ること。(B1(2))
- ◆円錐の体積を底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係を理解すること。 (A5(4))
- ◆付加された条件の下で証明を振り返って考え、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を用いること。(B4(2))

# 関 数

- $\diamondsuit$ 一次関数 y = a x + b について、  $a \ge b$  の値とグラフの特徴を関連付けて理解すること。(A11(2))
- ◇与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。(B3(1))
- ◆関数の意味を理解すること。反比例について、グラフと表を関連付けて理解する こと。(A9、A10(4))
- ◆グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を数学的に説明すること。(B6(3))

# 資料の活用

- ◇確率の意味をすること。(A14(1))
- ◇樹系図を利用し求めることで、与えられた情報を分類整理すること。(B5(1))
- ◆度数分布表から相対度数を求めること。ヒストグラムにおいて、中央値の意味を 理解すること。(A13(1)、13(2))
- ◆不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明すること。 (B5(2))

### ◎指導改善に向けて

過去の調査を通じて、A問題、B問題ともに良好な結果である。今後も、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、さらに活用することができるよう継続的な指導が必要である。また、事象を数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明することができるよう指導していく必要がある。

- ○指導のポイント
  - ・事柄が成り立つかどうかの判断に際して、判断した理由を説明する活動の

充実。

- ・数量の大小関係を、文脈に沿って的確に捉えて表現する活動の重視。
- ・証明の方針を立て、その方針に基づいて証明する活動と、それによってわ かった事柄を用いる活動の充実。
- ・関数の意味を理解し、その事象の問題解決方法を数学的に説明する活動の 充実。
- ・相対度数の必要性と意味を理解し、資料の傾向を読み取る活動の重視。

### ○具体例

- 事柄が成り立つときには文字式を用い、成り立たないときには反例をあげ、 それぞれを説明する学習。
- ・事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表す学習。
- ・証明の方針を立てるために、性質や関係を見いだす活動と共に、証明され た事柄を利用してさらに深化させる学習。
- ・事象の中における関数としての取扱ができるかどうかを判断すること。また、事柄が成り立つ根拠を数学的な表現を用い説明する学習。
- ・集積したデータの代表値から、そのデータの傾向を整理し、説明する学習。

# (2) 児童生徒質問紙の調査結果

ア 小学校

### 【概要】

学習時間について、平日、休日を問わず、1日当たり長時間勉強している割合は、 県と同様で全国より高い傾向にある。塾で勉強をしている児童が多いが、家庭で授業 の予習・復習を行っている児童の割合は全国・県に比べて低い。これらは、例年と同 じ傾向である。

基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることや睡眠に対する習慣、学校の 出来事を家の人に話すことなど、おおむね良好傾向であり、習慣づいている様子が伺 える。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」という回答の割合が県より高く、平成25年度からも割合が上がっている。これからも継続して指導をし、意識の醸成を図っていく必要がある。

### ○学習に対する関心・意欲・態度

- ・「国語の授業の内容がよく分かりますか」という質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童は合わせて 82%で、県や全国を若干上回る。
- ・「算数の授業の内容がよく分かりますか」という質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童は合わせて 79%で、全国や県を若干下回っている。

### ○学習時間等

- ・「学校の授業時間以外で平均1日あたり学習する時間」は、3時間以上の児童が全国の約2倍となり高い。しかし、30分より少ないまたは全くしない児童の割合も、全国より高く、二極化が見られる。30分より少ないまたは全くしない児童への手立てとして家庭での学習の習慣を家庭と連携し、つけていく必要がある。
- ・学校が休みの日に1日あたり4時間以上勉強している児童の割合が全国・県に比べて高い。
- ・塾で勉強をしている児童が多く、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強 している」割合が高い。しかし家庭で授業の予習・復習を行っている児童の割合 は、全国・県に比べて低い。
- ・読書時間は、全国・県より長い傾向にある。

#### ○学習状況

- ・「総合的な学習の時間」で、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」児童の割合は、58%で全国・県の割合より低い。さらなる探究的な学習に取り組み、それを児童に認識させる必要がある。
- ・「授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う」児童の割合は77.5%で全国・県の割合より若干低い。また、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」児童の割合も64.9%で全国・県の割合を下回っている。授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)を明示するとともに、授業の終わりに学習内容を振り返る活動に学校全体で一層取り組む必要がある。

#### ○基本的生活習慣

- ・朝食を毎日食べる児童が91%であり、全国・県と比べて高い。
- ・平日のテレビ・ビデオ視聴時間は1時間以下の児童の割合が全国・県より高く、 4時間以上視聴している児童の割合も、全国、県より少ない。
- ・普段1日あたりテレビゲームをする時間は、「全くしない」「1時間より少ない」 を合わせると51.3%で、全国・県と比べてゲームをする児童、ゲームをする時間 は少ない。

### ○自尊意識

・「自分には、よいところがある」と思うと回答した児童の割合が、80.9%で全国・ 県よりも高い。

### ○規範意識

・「学校の決まりを守っている」、「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「いじめは どんな理由があってもいけないことだ」という問いに「当てはまる」「どちらかと いえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・県と比べてほぼ同じ割合 であった。

### ○携帯電話、スマートフォン

- ・所持率は64.2%で、県とほぼ同じ割合だが、全国よりかなり高い。普段(月~金曜日)1日あたりの通話やメール、インターネットをする時間が3時間以上の割合は5.3%であり、全国・県と同様であった。
- ・携帯電話、スマートフォンを持ち始める際に、家庭では使用のルールづくりとそ の徹底、学校では引き続き情報モラル教育の充実が求められる。

### ○新聞、ニュース

- ・新聞を読んでいる児童は、全国・県の割合より高い。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る児童は、全国・県 の割合とほぼ同等であった。

#### イ 中学校

#### 【概要】

学習時間について、平日、休日を問わず、1 日当たり長時間勉強している割合は、 県と同様で全国より高い傾向にある。

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」割合が高い。

基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることやテレビゲーム、携帯電話、スマートフォンの使用状況、使用の決め事など習慣づいている様子が伺える。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」 という質問に対して「当てはまる」と回答した割合は県と同様の結果であったが、全 国より低い。これからも継続して指導をし、意識の醸成を図っていく必要がある。

#### ○学習に対する関心・意欲・態度

・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」生徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で67%となっている。

- ・「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫 している」生徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方 で 61.1%となっている。
- ・「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」生 徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で74.5%となっている。
- ・「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」生徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で約75.9%となっている。
- ・国語、数学ともに学習に対する関心・意欲・態度はいずれも全国・県を上回って おり、良好な結果であった。
- ・国語、数学ともに「授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思っている」生徒の割合は、全国・県を下回っている。日ごろから、学習の目的や、学習したことが将来、社会に出たときに役に立つことについて生徒に知らせ、学ぶ意欲を喚起させる必要がある。

# ○学習状況

- ・「総合的な学習の時間」で、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」生徒の割合は、70.2%であり、全国・県の割合をかなり上回っている。
- ・「授業で、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている と思う」生徒の割合は、61.3%であり、全国・県の割合をかなり上回っている。
- ・「授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う」生徒の割合は76.4%で全国・県の割合を上回っているが、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」生徒の割合は49.4%で全国の割合を下回っている。各授業での学習の目標(めあて・ねらい)に即して、学習内容を振り返る活動の充実を図る必要がある。

### ○学習時間等

・「塾で勉強をしている」生徒が約77%と国・県と比べて多く、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している」割合が特に全国と比べて高い。1日当たりの学習時間も全国・県と比べて長い傾向がある。

#### ○基本的生活習慣

- ・朝食を毎日食べている生徒は約94%で、全国・県の値より高い。約86%であった平成25年度より大きく改善されている。
- ・普段(月~金曜日) 1日あたりテレビゲームをする時間は、「全くしない」「1時間より少ない」を合わせると約50%になり、全国・県と比べてゲームをする生徒、ゲームをする時間は少ない。

### ○自尊意識

・「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は77.6%であり、全国・県よりかなり高い。

### ○規範意識

・「学校の規則を守っているか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば、 当てはまる」と回答した生徒の割合は92.4%であり、全国・県の割合とほぼ同様 である。

また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という問いに「当てはまる」と回答した生徒の割合は 62.7%であり、全国の割合より低い。「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という認識を生徒にもたせるとともに、いじめ問題に取り組む機会を設け、生徒にいじめについて考えさせ、生徒が主体的に行動できるよう取り組むことが大切である。

### ○携帯電話、スマートフォン

・所持率は82.5%で、県よりは低いが全国より高い。普段(月~金曜日)1日あたりの通話やメール、インターネットをする時間が3時間以上の割合は17%で、全国・県の割合より低い。

### ○新聞、ニュース

- ・「新聞を読んでいますか。」という問いに対して、全国・県の割合より低く、53.9% の生徒が「ほとんどまたは全く読まない」という結果であった。また、「ほぼ毎日 読んでいる」生徒の割合は全国・県より高い。
- ・逆に「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る」生徒の割合は、57.3%と全国・県の割合より高い。ニュースなどの情報はテレビやインターネットからが主となっている。

### 4 今後の学校での取組

本調査における本市の集計結果は、学習面では過去の調査と同様、良好な結果を示している。また、いじめに対する児童生徒の意識が、過去の結果に比べ横ばいまたは高められており、いじめ防止の取組等、成果が見られる。今後も継続して指導する必要がある。

学習においては、各教科の調査分析にまとめた、領域の課題、指導のポイント及び具体例を参考に、今後も引き続き、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組を進めることが大切である。児童生徒が「授業が楽しい」「授業がわかる」と実感できる授業づくりが求められる。

日々の授業では「児童生徒が主体的に取り組む」といった授業形態の工夫が必要である。言語活動の充実はその学習活動の一つである。児童生徒が自分の考えをまとめたり、

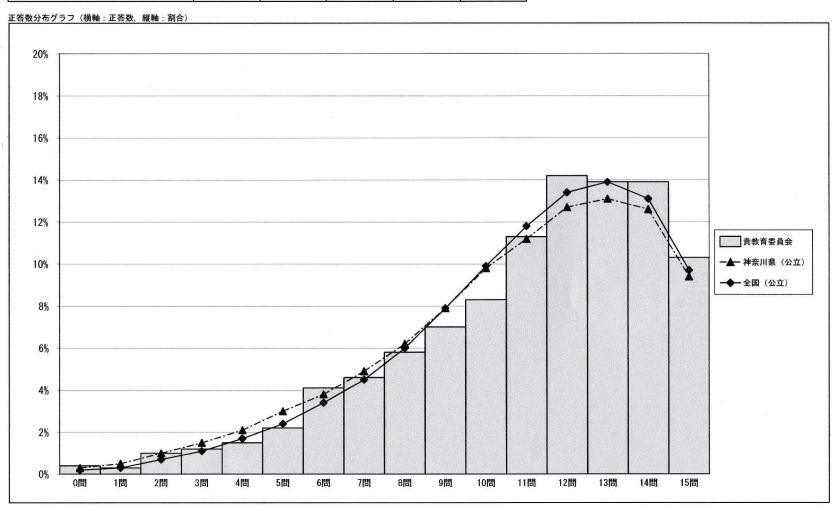
発表したり、他者の意見を聞いたりするなどの活動を充実させることが必要である。

そして、授業の始まりには学習の目標(めあて・ねらい)を明示し、児童生徒が学習の見通しを持って授業を受け、その時間の終わりには、学習の目標に対する振り返りができるよう、組織的・計画的に行っていくよう努めることが大切である。

# 調査結果概況 [国語A:主として知識]

鎌倉市教育委員会一児童

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1, 300	11.0 / 15	73. 2	12. 0	3. 2
神奈川県(公立)	75, 168	10.7 / 15	71.3	11. 0	3. 3
全国(公立)	1, 080, 663	10.9 / 15	72. 9	12. 0	3.1

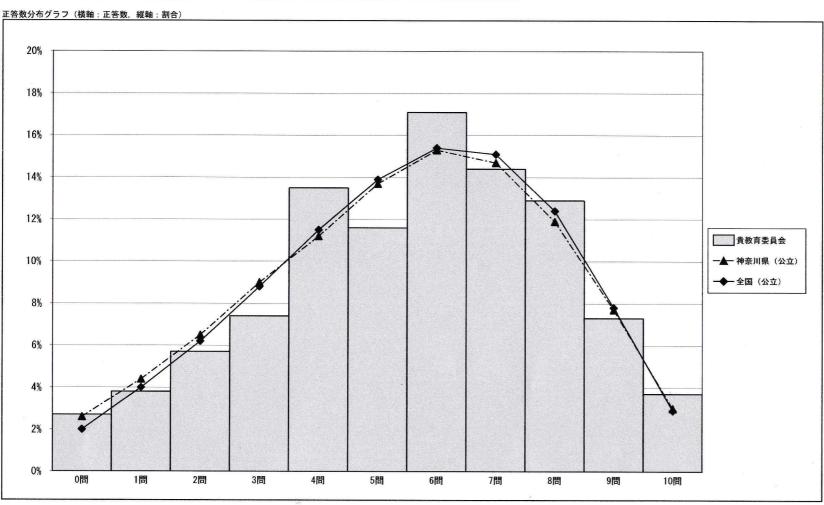


(左:!	正答数集計値 児童数 右:割	今(%))
O問	5	0. 4
1問	4	0. 3
2問	13	1.0
3問	15	1. 2
4問	19	1. 5
5問	29	2. 2
6問	53	4. 1
7問	60	4. 6
8問	75	5. 8
9問	91	7. 0
10問	108	8. 3
11問	147	11. 3
12問	185	14. 2
13問	181	13. 9
14問	181	13. 9
15問	134	10. 3

# 調査結果概況 [国語B:主として活用]

鎌倉市教育委員会一児童

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1, 301	5.6 / 10	55. 8	6. 0	2. 4
神奈川県 (公立)	75, 168	5.5 / 10	54. 6	6. 0	2. 5
全国(公立)	1, 080, 444	5.5 / 10	55. 5	6. 0	2. 4



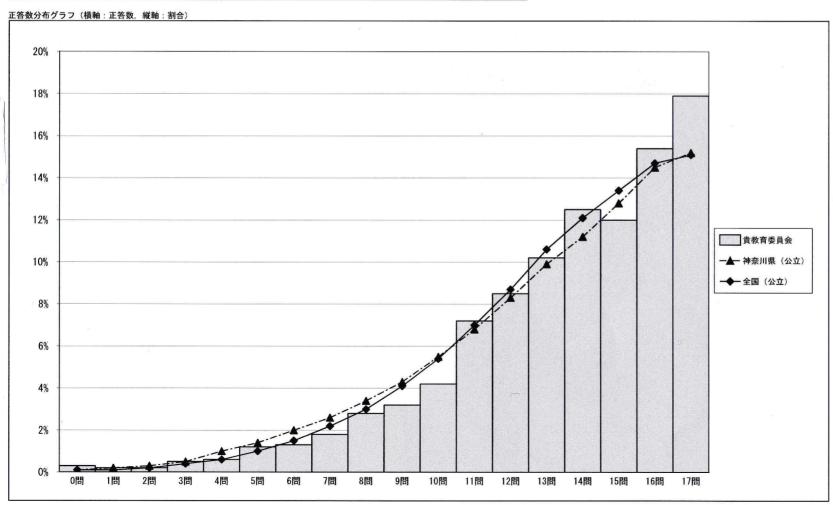
(左:.	正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))				
O問	35	2. 7			
1問	49	3. 8			
2問	74	5. 7			
3問	96	7.4			
4問	176	13, 5			
5問	151	11.6			
6問	222	17. 1			
7問	187	14. 4			
8問	168	12. 9			
9問	95	7. 3			
10問	48	3. 7			

# 調査結果概況 [算数A:主として知識]

鎌倉市教育委員会一児童

18

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1, 301	13.4 / 17	79. 1	14. 0	3. 3
神奈川県(公立)	75, 167	13.1 / 17	76. 9	14. 0	3. 4
全国(公立)	1, 080, 657	13.3 / 17	78. 1	14. 0	3. 2

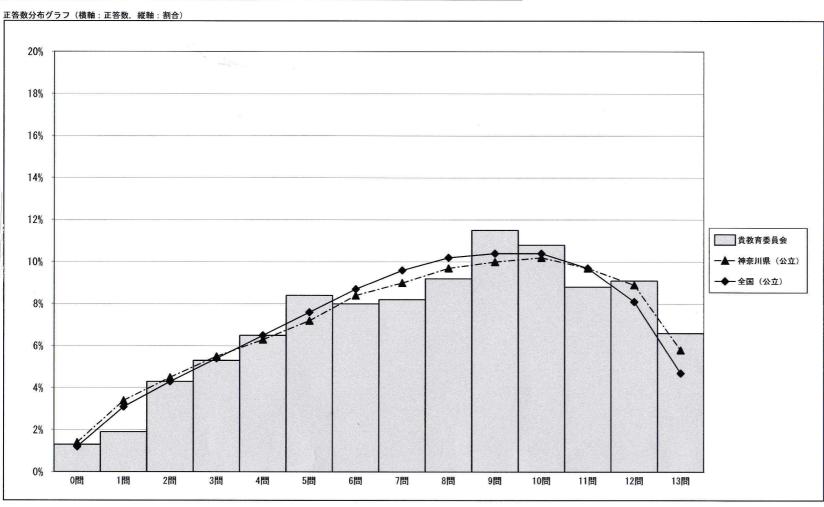


	正答数集計值	
(左:	児童数 右:割	合(%))
O問	4	0. 3
1問	2	0. 2
2問	2	0. 2
3問	7	0. 5
4問	8	0. 6
5問	15	1.2
6問	17	1. 3
7問	23	1.8
8問	37	2. 8
9問	42	3. 2
10問	55	4. 2
11問	94	7. 2
12問	110	8. 5
13問	133	10. 2
14問	163	12. 5
15問	156	12. 0
16問	200	15. 4
17問	233	17. 9

# 調査結果概況 [算数B:主として活用]

鎌倉市教育委員会一児童

0	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1, 301	7.8 / 13	59. 8	8.0	3. 4
神奈川県(公立)	75, 163	7.6 / 13	58. 6	8. 0	3. 4
全国(公立)	1, 080, 442	7.6 / 13	58. 2	8. 0	3. 3



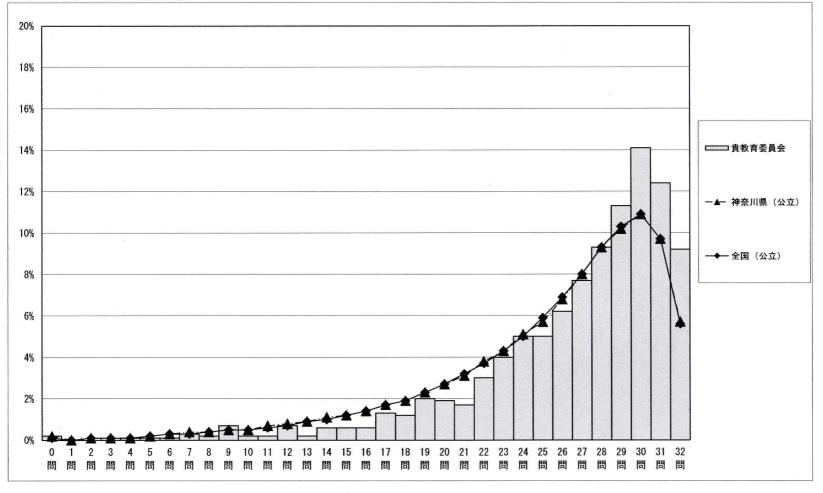
(左:	正答数集計値 児童数 右:割	合(%))
O問	17	1. 3
1問	25	1. 9
2問	56	4. 3
3問	69	5. 3
4問	84	6. 5
5問	109	8. 4
6問	104	8. 0
7問	107	8. 2
8問	120	9. 2
9問	150	11.5
10問	141	10.8
11問	115	8.8
12問	118	9. 1
13問	86	6. 6

# 調査結果概況 [国語A:主として知識]

鎌倉市教育委員会一生徒

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,050	26.7 / 32	83.4	28. 0	5. 1
神奈川県(公立)	65, 325	25, 3 / 32	79. 2	27. 0	5.8
全国(公立)	1, 017, 965	25.4 / 32	79. 4	27. 0	5. 7



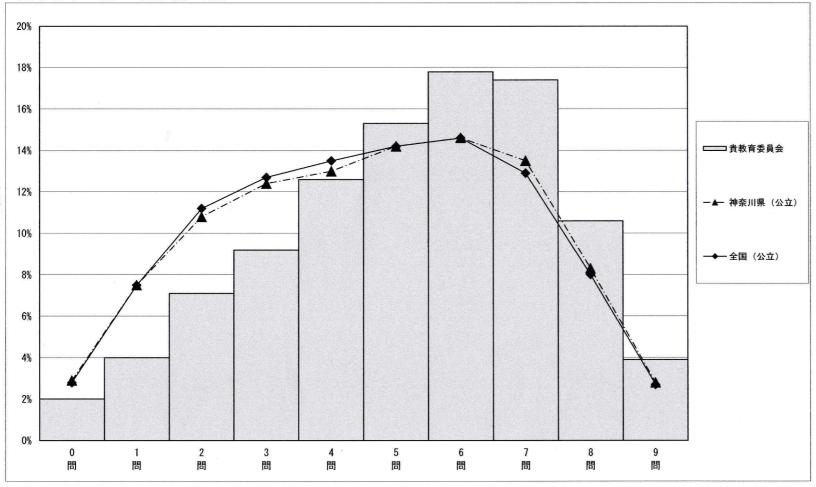


	正答数集計值	F
(左:		<sup>旦</sup> 削合(%))
0問	2	0. 2
1問	0	0.0
2問	0	0.0
3問	1	0. 1
4問	1	0.1
5問	1	0. 1
6問	1	0.1
7問	3	0.3
8問	2	0.2
9問	7	0.7
10問	2	0. 2
11問	2	0. 2
12問	7	0.7
13問	2	0.2
14問	6	0.6
15問	6	0.6
16問	6	0.6
17問	14	1.3
18問	13	1. 2
19問	- 21	2. 0
20問	20	1.9
2 1 問	18	1.7
22問	31	3.0
23問	42	4. 0
24問	52	5. 0
25問	52	5.0
26問	65	6. 2
27問	81	7.7
28問	98	9. 3
29問	119	11.3
30問	148	14. 1
3 1 問	130	12. 4
32問	97	9. 2

# 平成26年度全国学力・学習状況調査 **調査結果概況 [国語B:主として活用**]

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,049	5.2/9	58. 0	5. 0	2. 2
神奈川県(公立)	65, 349	4.6 / 9	51.5	5.0	2. 3
全国 (公立)	1, 018, 157	4.6 / 9	51. 0	5. 0	2.3





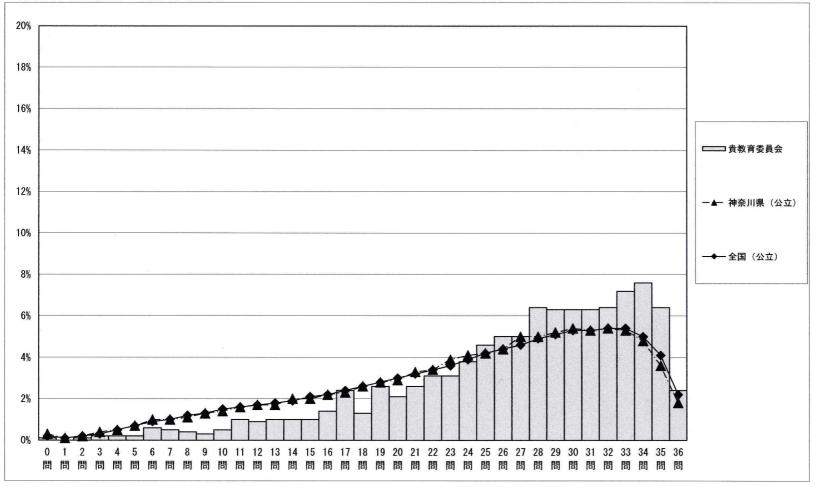
	正答数集計值	Ī
(左:	生徒数 右:割	合(%))
O問	21	2. 0
1問	42	4. 0
2問	75	7. 1
3問	96	9. 2
4問	132	12. 6
5問	161	15. 3
6問	187	17. 8
7問	183	17. 4
8問	111	10.6
9問	41	3. 9

# 調査結果概況 [数学A:主として知識]

鎌倉市教育委員会一生徒

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,049	26.8 / 36	74. 4	28. 0	7. 0
神奈川県 (公立)	65, 359	24.1 / 36	67.0	26. 0	8, 2
全国(公立)	1, 018, 328	24.3 / 36	67. 4	26. 0	8. 2





正答数集計値 (左:生徒数 右:割合(%))				
0問	1	0.1		
1問	0	0.0		
2問	1	0.1		
3問	2	0. 2		
4問	2	0. 2		
5問	2	0.2		
6問	6	0.6		
7問	5	0.5		
8問	4	0.4		
9問	3	0.3		
10問	5	0. 5		
11問	11	1.0		
12問	9	0.9		
13問	11	1.0		
14問	11	1.0		
15問	10	1.0		
16問	15	1.4		
17問	25	2. 4		
18問	14	1.3		
19問	27	2, 6		
2 0問	22	2. 1		
2 1問	27	2.6		
22問	32	3. 1		
23問	32	3. 1		
2 4 問	40	3, 8		
25問	48	4.6		
26問	52	5.0		
27問	52	5.0		
28問	67	6.4		
29問	66	6.3		
30問	66	6.3		
3 1問	66	6. 3		
3 2 問	67	6. 4		
33問	76	7. 2		
3 4 問	80	7.6		
35問	67	6. 4		
3 6問	25	2.4		

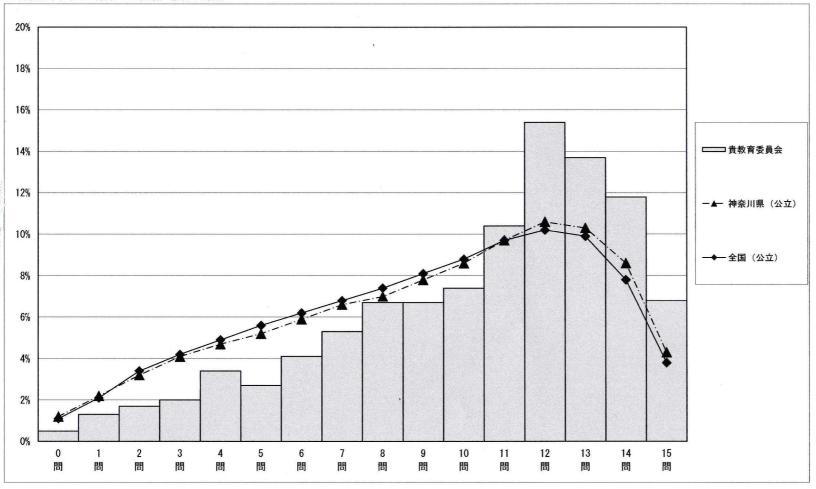
# 調査結果概況 [数学B:主として活用]

鎌倉市教育委員会一生徒

・以下の集計値/グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,048	10.3 / 15	68.8	11.0	3.5
神奈川県(公立)	65, 347	9.1 / 15	60.8	10.0	3. 9
全国 (公立)	1, 018, 365	9.0 / 15	59.8	10. 0	3. 9

#### 正答数分布グラフ (横軸:正答数, 縦軸:割合)



正答数集計值 (左:生徒数 右:割合(%))				
	生促致 石:吉	刊音 (%))		
O問	5	0.5		
1問	14	1.3		
2問	18	1.7		
3問	21	2. 0		
4問	36	3. 4		
5問	28	2. 7		
6問	43	4. 1		
7問	56	5. 3		
8問	70	6. 7		
9問	70	6. 7		
10問	78	7. 4		
11問	109	10. 4		
12問	161	15. 4		
13問	144	13. 7		
14問	124	11.8		
15問	71	6.8		